

福岡市美術館の事業について

平成 25 年度実績

(1) 展覧会の開催

空調工事で7～9月の3ヶ月間閉館し、入館者数はその分伸び悩んだ。1月～2月は、特別展(現代美術)、近現代美術常設企画展(戦後に活躍した地元作家)、古美術常設企画展(茶道具)と、まったくジャンルの異なる3つの企画展が同時開催され、さまざまな年齢層のニーズに応えた。常設展「美術館でZOO」は、動物園との初のコラボレーションが評価され経済観光文化局長賞を受賞した。

フランスの国立ギメ東洋美術館の依頼で、2011年に開催した古美術企画展「藍染の美 筒描」を再構成して「TSUTSUGAKI Textile indigo de Japon」展(7月10日～10月7日、主催:国立ギメ東洋美術館、協力:福岡市美術館)を展示した。

ア. 特別展

アール・ブリュット・ジャポネ

10月1日～11月24日

主催:福岡市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

2010年3月から翌年1月まで、パリ市立アル・サン・ピエール美術館で開催され、12万人もの来場者を魅了した「ART BRUT JAPONAIS」の日本凱旋展覧会。美術教育を受けていない人々が評価を当てにしないまま生み出した作品は「アール・ブリュット」と呼ばれる。総勢63人・600点を超える作品群が発する力強いエネルギーと豊かな表現は、美術の原点を考えさせてくれる。

担当:山口洋三主任学芸主事

<入場者:10208名>

関連企画

	事業名	開催日	講師	参加者数
1	記念講演会「日本のアール・ブリュットの魅力」	10月13日	小林瑞恵 NPO法人はれたりくもったりおよび社会福祉法人愛成会アートディレクター	142人

想像しなおし

会期:2014年1月5日～2月23日 43日間

主催:福岡市美術館、西日本新聞社、TVQ九州放送

福岡市美術館で14年ぶりとなる、日本の若手作家によるグループ展。既成の枠組みや制度をずらしながら、新たな見え方・捉え方へと鑑賞者を誘う作品を制作する新進気鋭のアーティスト6人(大西康明・手塚愛子・川辺ナホ・狩野哲郎・山本高之・山内光枝)の活動と作品を「想像しなおし」という態度で取り上げ、新作を中心とした作品・インスタレーションで構成した。参加作家は2013年12月下旬から福岡市美術館に滞在し、展示室にて作品を制作・設営。近年まれに見る大規模な現代美術展となった。

担当：正路佐知子学芸主任

<入場者：6,168名>

関連企画

	事業名	開催期間	出演作家(または内容)	参加者数
1	プレワークショップ「どうぶつたちのいっしゅうかん」	2013年8月20日	山本高之 協力：福岡市動物園	9人
2	先行展示「どうぶつたちのいっしゅうかん」	2013年10月1日-12月27日	※8月20日のワークショップで撮影した映像をもとにした山本高之の映像作品を2階ロビーにて無料展示	
3	ワークショップ「地獄の門の裏側」	2013年12月23日	山本高之 協力：古賀市教育委員会、古賀市アートパス	15人
4	オープニング・イベント アーティスト・トーク	1月5日	大西康明、手塚愛子、川辺ナホ、狩野哲郎、山本高之、山内光枝	200人
5	ワークショップ「スプーン曲げを教える、ほか」	1月12日	山本高之	9人
6	アーティスト・トーク① 山本高之	1月13日	話し手：山本高之 聞き手：正路佐知子	20人
7	アーティスト・トーク② 川辺ナホ	1月13日	話し手：川辺ナホ ゲスト：山本高之 聞き手：正路佐知子	35人
8	アーティスト・トーク③ 大西康明	2月1日	話し手：大西康明 聞き手：正路佐知子	30人
9	アーティスト・トーク④ 狩野哲郎	2月1日	話し手：狩野哲郎 ゲスト：展示室監視スタッフ 聞き手：正路佐知子	47人
10	アーティスト・トーク⑤ 山内光枝	2月11日	話し手：山内光枝 ゲスト：石原義剛(海の博物館館長)	43人
11	キュレーター・ギャラリー トーク	1月25日 2月16日	正路佐知子	18人 40人
12	デザイナー×キュレーター・トーク	2月11日	尾中俊介(Calamari Inc.) 聞き手：正路佐知子	75人

13	クロージングイベント	2月23日	大西康明、狩野哲郎、山内光枝、山本高之、川辺ナホ、手塚愛子 進行:正路佐知子	
----	------------	-------	--	--

イ. 常設企画展

没後50年 上田宇三郎展 -もう1つの時間へ-

12月18日—2月16日

企画展示室

戦後の福岡で、日本画における新しい表現を試みた上田宇三郎。4人の画友とともに「朱貌社」を立ち上げ、その自由な交流の中で、宇三郎は明快な造形性を持つ独自の世界を切り拓いた。彼が「命の花火」と呼んだ作品（日本画、ガラス絵、素描、色紙）89点と関連資料を展示。図録には、宇三郎が詳細に記した日記をデータ化してCDで添付。

担当：吉田暁子学芸員

<入場者：13,216名>

関連企画

	事業名	開催期間	講師	参加者数
1	時のあじわい、日々の におい—『上田宇三郎 日記』を読む	1月19日 2月2日	朗読:山内光枝(アーティスト)	27人 29人

茶の湯交遊録—小林一三と松永安左エ門

1月5日（日）—2月16日

古美術企画展示室、松永記念館室

主催：福岡市美術館、NHK福岡放送局

耳庵・松永安左エ門と逸翁・小林一三の二人は、終生の友であり、戦前から戦後にかけて活躍した大茶人であった。二人の茶の湯の世界を、逸翁美術館と福岡市美術館のコレクションの名品でたどった。逸翁美術館と共同開催。図録は思文閣出版社から出版。松永安左エ門のNHKラジオ出演時の音声を聴くための講演会は、好評につき壱岐日日新聞社と共同主催で再び行い、壱岐からも多数の来場者を得た。

担当：岩永悦子学芸係長

<入場者：12,058名>

関連企画

	事業名	開催期間	開催日数	講師ほか	参加者数
1	講演会 松永左エ門 電氣力再編成と茶を語る	平成26年1 月11日	1日	講師 岩永悦子	143人

	～NHKラジオ番組の音声復活				
2	アクロス・文化学び塾 松永左エ門 電気力再編成と茶を語る ～NHKラジオ番組の音声復活	1月25日	1日	講師 岩永悦子	70人
3	呈茶席 耳庵、逸翁を送る～逸翁追善呈茶席	1月26日	1日	席主 耳庵会	124人
4	特別講演会 素顔の松永安左エ門翁～NHKラジオ 番組の音声復活！ 主催：彦岐日日新聞社、福岡市美術館	2月16日	1日	講師 岩永悦子	130人

ウ. 常設展（近現代美術）

*（ ）内は担当学芸員

世界・日本・九州の美術— 20世紀から21世紀へ (山口洋三主任学芸主事)	近現代美術室	平成24年—平成25年6月30日、 10月1日—平成26年6月1日	当館の代表的な所蔵作品を年代別テーマ別に展示。10月以降は九州ゆかりの美術と80年代以降の国内現代美術を中心に展示
富田溪仙展 (渡抜由季学芸員)	日本画工芸室	4月9日—5月12日	富田溪仙《御室の桜》《筑紫八景》など溪仙独自の魅せる風景画を中心に展示
原健の版画 (山口)	小作品室		原健の鮮やかな色彩とシャープな形態による代表的な版画作品を紹介
白い壁の見せる夢—三岸、ル・コルビュジェ、菊畑の絵画— (吉田暁子学芸員)	企画展示室		三岸好太郎、菊畑茂久馬、ル・コルビュジェの作品を「白い壁」に触発された夢の結晶として捉える展示
太田コレクション展 (吉田)	日本画工芸室	5月14日—6月30日	福岡市出身の実業家・五代太田清蔵が収集し、当館に寄贈した作品を展示
〈物〉と〈絵画〉の相克— 菊畑茂久馬《ルーレット》とその時代 (山口)	小作品室		昨年度購入した菊畑茂久馬《ルーレット》と1960年代の前衛美術を展示
草間彌生—幻影の彼方 (正路佐知子主任)	企画展示室		草間彌生《幻影の彼方》(1999)を中心に、個人蔵と当館所蔵作品を展示
吉村忠夫展 (渡抜)	日本画工芸室	10月1日—11月	綿密な時代風俗考証に基づく、吉村忠夫の典雅で堅実な作風の日本画を展示
ヴォルス展 (吉田)	小作品室	24日	ドイツで生まれフランスで没した鬼才・ヴォルスの特集展示

田部光子展 (正路)	企画展示室	10月1日—12月15日	福岡の前衛画家・田部光子の半世紀にわたる活動を振り返る
近代屏風絵名品展 (渡抜)	日本画工芸室	11月26日—1月26日	機能美という視点を切り口として、屏風の美を紹介
藤森静雄展 (山口)	小作品室		創作版画運動を推進した藤森静雄の歩んだ道のりを辿る
桜と梅 (吉田)	日本画工芸室	1月28日—3月30日	梅と桜を題材とした日本画を展示
デュビュッフェの版画—「物質と記憶」より (正路)	小作品室		ジャン・デュビュッフェのリトグラフ集「物質と記憶」を展示
新収蔵品展 (山口)	企画展示室	2月18日—3月31日	2012(平成22)年度に寄贈された作品を展示

(古美術)

東光院の仏教美術 (後藤恒総括主任)	東光院仏教美術室	平成25年4月2日—6月30日、10月1日—平成26年3月30日	旧福岡藩主黒田家の菩提寺のひとつであった薬王蜜寺東光院から寄贈された重要文化財を含む仏像を常時展示。木造薬師如来立像(平安時代)など。
近世の障屏画～大画面絵画の楽しみ～ (中山喜一郎運営部長)	古美術企画展示室	4月2日—5月26日	桃山・江戸時代の大画面絵画を展示。キャプションはクイズ形式。
青磁の美 (後藤)		5月28日—6月30日	東南アジア陶磁の中から、青磁にスポットを当てて展示。
新収蔵品展 (後藤)			広東漆器、インド更紗、チベット、中国の博仏(せんぶつ)資料など。
松永コレクション名品展 (後藤)	松永記念館室	4月2日—6月30日	松永耳庵コレクションから、陶磁器、金工品、漆工品を中心に展示。
美術館でZoo (神保明香学芸員)	古美術企画展示室	10月1日—11月17日	別項参照
秋の名品展 (岩永悦子学芸係長)	松永記念館室		明恵上人の夢記切をはじめ、秋の深まりを感じさせる作品を展示。
箱と蓋物 (岩永)	古美術企画展示室	11月19日—12月27日	硯箱や香合など、蓋で閉ざされた小宇宙としての箱類を展示。
田中丸コレクション (後藤)			九州の主要な窯を網羅する近世陶器の名品を展示。

漢画の世界 (岩永)	古美術企 画展示室	2月18日—3月30 日	松永コレクション、太田コレクションの 漢画を紹介。
茶の湯交遊録関連企画Ⅰ 田中丸善八と松永安左エ 門(後藤)			「茶の湯交遊録—小林一三と松永安左 エ門」展関連企画。二人の交友を物語る 作品、諸資料を展示。
茶の湯交遊録関連企画Ⅱ 内本浩亮と松永安左エ門 (岩永)	松永記念 館室	2月18日—3月30 日	「茶の湯交遊録—小林一三と松永安左 エ門」展関連企画。内本浩亮旧蔵品を

エ. 公募展

第48回福岡市美術展

平成26年3月11日～3月23日

- ・出品点数1,208点、入賞入選点数681点、入場者数5,174人
- ・毎年開催する福岡市民を中心とする公募展
- ・入選作品を前期、後期に分けて展示
- ・日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、デザインの7部門について一般公募
- ・審査員によるギャラリートーク(解説、講評)を実施

オ. 展覧会の観覧者状況

(単位:展、人)

区 分	常設展	特別企画展		貸会場展		合 計	
		展覧回数	観覧者数	展覧回数	観覧者数	展覧回数	観覧者数
24年度	(247) 75,943	4	(1,174) 167,904	195	(232) 276,328	199	(1,694) 520,175
25年度	(209) 47,502	2	(180) 16,376	127	(250) 191,766	129	(1,126) 255,644
開館以来 累計	(267) 2,764,014	117	(1,269) 4,590,758	6,474	(376) 15,393,859	6,591	(2,195) 22,748,631

※ () は、常設展・特別企画展・貸会場展は開催日1日あたり、合計は開館日1日あたりの観覧者数

(2) 美術品の収集

美術品の購入(福岡市文化芸術振興財団よりの買戻し)

- ・日本画「暁山の雲」
- ・油彩「春風 一」
- ・染織「水牛人物文様更紗」

美術品の寄贈

○近現代美術 96 点(絵画、日本画、素描、水彩、版画、彫刻)

昨年度、福岡県立美術館と共同開催した「福岡現代美術クロニクル 1970－2000」、2010(平成 22)年度開催の「第 9 回 21 世紀の作家－大浦こころ展」の出品作から多数の寄贈を受けた。これにより、「九州派」以後の福岡の現代美術コレクションが飛躍的に充実した。他にも、市内の作家、所蔵家より寄贈を受けた。

・主な作品： 小山正《アンテナをつけた犬》

岡部昌生《PROJECT AT FUKUOKA AMERICAN CENTER IN FUKUOKA JAPAN AUG.1990》他 40 点

小川幸一《十方世界》他 9 点

大浦こころ《水を吹く女の子》他 4 点

オチ・オサム《ホリゾントライン & パーチカルライン》

浦志武火子《後庭清妍》 など

○古美術 330 件(絵画、書跡、彫刻、陶磁、漆工、染織、写真、その他、資料、陶片資料)

古美術は、これまでの展覧会活動を評価いただき、多数の寄贈品を受けることができた。特に、栗田コレクション(インダス土器やガンダーラ彫刻など 277 件)など大口のご寄贈のほか、仙厓作品を中心に曾我蕭白作品を含む博多百年蔵コレクション、松永安左エ門のご遺族から関連資料などの寄贈を受けた。

・主な作品：栗田コレクション…コブウシ文壺 (インダス文明期) ほか 全 277 件

森田コレクション…仏五尊像「ヴァラの寄進」銘ほか 全 8 件

博多百年蔵コレクション…仙厓筆福神図 ほか 全 24 件

半田コレクション…星花文様印金絞り(インドネシア、スマトラ島)ほか 全 16 件

松永安一郎氏…松永安左エ門旧蔵「黄林閣蔵品帳」ほか 全 2 件

(3) 作品の修復等

保存担当学芸員により、所蔵作品に対して以下の処置を行った。

作者名	作品名	処置内容
山崎直秀	意味-物質	乾式クリーニング
バリー・フラナガン	三日月の鐘の上を飛ぶ野うさぎ	高圧洗浄、ワックス塗布
エミリオ・グレコ	スケートをする女 No. 2	高圧洗浄、ワックス塗布
ジャコモ・マンズー	恋人たち	高圧洗浄、ワックス塗布
菊畑茂久馬	海道 四	浮き上がり接着
藤森静雄	自画像	浮き上がり接着

(4)教育普及事業

ア. 美術館で Zoo

内容:平成 25 年度は、実験的な教育普及活動として、動物園と連携した企画「美術館で Zoo」を実施した。展覧会においては、動物園より剥製を借用し、作品と剥製を比較して鑑賞できるようにした。また、来館者の見るきっかけを作るため、キャプションを従来のもよりも大きくし、さらに文字数を減らし、博多弁などを使って親しみのあるものに工夫した。関連企画としてはアニマルアートツアーを動物園と美術館で実施。担当学芸員と飼育員が作品と実際の動物とを比較するトークを行い、その後、参加者はさまざまな素材を使って動物たちの獣舎を作るなど、制作活動を行った。

担当:神保明香学芸員

実施期間等:

	事業名	開催期間	開催日数	講師	参加者数
1	「美術館で Zoo」展覧会	10 月 1 日～ 11 月 17 日	42 日	—	
2	アニマルアートツアー in 動物園／美術館	8 月 1 日、4 日、10 月 6 日、20 日	4 日	藤野正和、伊藤姿子、米崎まどか(福岡市動物園飼育員)、神保明香(当館学芸員)	65 名

イ. こどもアートアドベンチャー

子どもたちと美術・美術館とのよりよい出会いの場を提供することを目的に、平成 9 年より展開している市内の小・中学校を対象とした教育普及活動。

①市内の小・中学校等の学校団体を対象にしたスクールツアー・プログラム

利用件数:54 団体(児童／学生:3,471 人 引率:187 人 その他:104 人)

(内訳)

4 月 13 日 九州産業大学芸術学部(2 年生)学生 50 人、引率 2 人

4 月 27 日 九州大学工学部(2 年生) 学生 78 人、引率 1 人

4 月 28 日 九州大学芸術学部(1 年生) 学生 150 人、引率 1 人

5 月 10 日 佐賀市川副中学校(2 生) 生徒 128 人、引率 7 人

5 月 21 日 福岡シティーグループバス「ぐりーん」で巡る 一般 24 人

5 月 22 日 玄界高校(2 年生) 生徒 32 人、引率 1 人

5 月 30 日 下松市立公集小学校(6 年生) 生徒 91 人、引率 8 名

6 月 16 日 ママとこどものアート時間 こども 10 人、一般 15 人

6 月 26 日 草ヶ江小学校 (4 年生) 生徒 103 人、引率 3 人

10 月 1 日 筑紫女学園中学校美術部(2,3 年生) 学生 4 人、引率 1 人

10月10日 金武中学校(1年生) 生徒213人、引率11人
10月11日 いとしま市民大学 一般15人
10月11日 島原市立三会小学校(6年生) 生徒50人、引率5人
10月18日 井尻保育園(年長) 園児53人、引率4人
10月19日 西区周船寺西町内会 一般25人
10月23日 リンデンホールスクール小学部(6年生) 生徒30人、引率3人
10月24日 東住吉中学校(1年生) 生徒90人、引率9人
10月26日 全国大学博物館学講座協議会西日本部 一般47人
10月30日 笹丘小学校(2年生) 生徒75人、引率3人
11月1日 福岡市姪北小学校(2年生) 生徒76人、引率4人
11月13日 立花中学校(3年生) 生徒48人、引率6人
11月14日 大野幼稚園 園児61人、引率6人
11月15日 大野幼稚園 園児60人、引率4人
11月15日 吉武小学校(5年生) 生徒16人、引率2人
12月6日 東野小学校(4年生) 生徒50人、引率4人
12月18日 南当仁小学校(2,5年生) 生徒213人、引率7人
1月9日 南片江小学校(5年生) 生徒86人、引率3人
1月15日 警固中学校(1年生) 生徒30人、引率1人
1月16日 警固中学校(1年生) 生徒31人、引率1人
1月18日 原中央中学校美術部 生徒13人、引率1人、一般10人
1月22日 香住丘小学校(5年生) 生徒146人、引率5人
1月22日 警固中学校(1年生) 生徒61人、引率1人
1月23日 長住小学校(5年生) 生徒84人、引率4人
1月24日 福津市上西郷小学校(6年生) 生徒23人、引率2人
1月30日 小田部小学校(5年生) 生徒116人、引率4人
2月4日 柏原小学校(5年生) 生徒115人、引率3人
2月8日 太宰府高等学校(1,2年生) 生徒61人、引率4人
2月12日 西高宮小学校(5年生) 生徒105人、引率3人
2月14日 西高宮小学校(5年生) 生徒70人、引率3人
2月14日 屋形原特別支援学校中等部 生徒11人、引率10人
2月20日 加茂小学校(6年生) 生徒92人、引率4人
2月25日 弥永西小学校特別支援学級 生徒9人、引率3人
2月25日 久留米市立津福小学校(6年生) 生徒105人、引率5人
2月26日 有田小学校(5年生) 生徒101人、引率4人
2月27日 玉川小学校(5年生) 生徒106人、引率3人
2月28日 内野小学校(5年生) 生徒66人、引率3人

- 3月6日 入部小学校(5年生) 生徒62人、引率3人
- 3月7日 原北小学校(5年生) 生徒106人、引率4人
- 3月8日 古賀市アートバス 生徒17人、引率5人
- 3月11日 北九州市横代中学校(2年生) 生徒30人、引率3人
- 3月13日 正法寺保育園(4歳児) 園児28人、引率4人
- 3月14日 正法寺保育園(3歳児) 園児23人、引率5人
- 3月18日 名城会(名護屋城博物館友の会) 一般25人
- 3月18日 当仁小学校(1年生) 生徒93人、引率4人

②市内中学校の「施設等を利用した体験学習」事業によるスクールツアー・

利用件数:8校 生徒/児童数:902人 引率教員数:60人

(内訳)

- 4月23日 小呂中学校(1,3年生) 生徒4人、引率4人
- 5月15日 玄界中学校(2年生) 生徒5人、引率2人
- 6月13日 和白丘中学校(1年生) 生徒256人、引率13人
- 6月14日 柏原中学校(2年生) 生徒186人、引率9人
- 10月31日 北崎中学校(1,2年生) 生徒30人、引率7人
- 11月19日 多々良中央中学校(1年生) 生徒202人、引率12人
- 11月22日 千代中学校(2年生) 生徒34人、引率4人
- 12月3日 花畑中学校(2年生) 生徒185人、引率9人

ウ. 講座

① つきなみ講座

美術館の仕事と美術のさまざまな側面を知ってもらうため、美術館職員が自身の研究・業務内容、特定のテーマ等について話をするというもの。月1回行うこの講座は、2013年度は12回実施した。なお、7月～9月までは休館だったため、博物館にて実施した。

第1回 障屏画の楽しみ・韃靼人狩獵図の秘密

講師:中山喜一郎 学芸課長

開催日:平成25年4月20日(土)

参加者:38人

第2回 菊畑茂久馬「ルーレット」～新収蔵作品を中心に～

講師:山口 洋三

開催日:平成25年5月18日(土)

参加者:26人

第3回 草間彌生入門～「前衛」であること、「女性」であること～

講師: 正路 佐知子

開催日: 平成 25 年 6 月 15 日(土)

参加者: 78 人

第4回 美術における真贋

講師: 錦織 亮介 館長

開催日: 平成 25 年 7 月 20 日(土)

参加者: 26 人

第5回 黒田官兵衛の肖像画について

講師: 中山 喜一郎

開催日: 平成 25 年 8 月 24 日(土)

参加者: 33 人

第6回 全国美術館会議 東日本大震災文化財レスキュー事業とその概要

講師: 渡抜 由季

開催日: 平成 25 年 9 月 21 日(土)

参加者: 8 人

第7回 美術館で Zoo—アートの動物園でみるウソつきな動物たち

講師: 神保 明香

開催日: 平成 25 年 10 月 19 日(土)

参加者: 16 人

第8回 ミュージアムの挑戦～館種を超えて～

講師: 鬼本 佳代子 主任学芸主事

開催日: 平成 25 年 11 月 23 日(土)

参加者: 10 人

第9回 松永安左エ門と小林一三

講師: 岩永 悦子

開催日: 平成 25 年 12 月 14 日(土)

参加者: 23 人

第10回 もうひとつの時間へ ―上田宇三郎展案内―

講師:吉田 暁子

開催日:平成26年1月18日(土)

参加者:27人

第11回 仏像 vs ヒンドゥー神像～タイとカンボジアの宗教彫刻～

講師:後藤 恒 学芸総括主任

開催日:平成26年2月15日(土)

参加者:20人

第12回 洋画家 岡田三郎助ってどんなヒト?～入門編～

講師:土橋 佳那子(嘱託学芸員)

開催日:平成26年3月15日(土)

参加者:49人

② いきヨウヨウ講座

60歳以上を対象としたシニア向け講座で、これまであまり美術館が対象としてこなかったこの世代に、美術および美術館に対して造詣を深めてもらい、心の充実感を実感してもらう美術教育活動。平成25年度に始めて実施したが、平成26年度からシリーズ化の予定。

第1回「私の桜、わたしの梅」

講師: 松本伸三朗 (植物園展示係長)、吉田暁子、

ギャレット三宅万里子(嘱託職員)

開催日:平成26年3月16日(日)

参加者:15名

エ. ファミリーDAY

平成25年度より新規に実施した教育プログラム。若い世代のファミリーに向け、開館記念日の周知と、家族で体験する美術・美術館の楽しさ、面白さを知ってもらうために、開館記念日を含む3日間をファミリーDAYとし、館内で同時多発的にワークショップなどを実施した。なお、実施に当たっては、博物館実習生および当館ボランティアがスタッフとして活動した。

日時:2013年11月2日(土)～4日(月)10:00～15:00

実施内容:

[毎日実施]

〇ミニミニワークショップ:未就学児童を対象としたワークショップ。

講師:オーギカナエ(アーティスト)

○ぬってみよう！どんな色？：当館の作品を対象とした塗り絵。

○美術館の不思議な動物を探せ！：館内の作品野中から描かれた不思議な動物を探してもらうというもの

[いずれか1日のみの実施]

○美術館謎解きツアー：11月2日(土)10:30、11:30、13:30、14:30

ナビゲーターが出す福岡市美術館の作品についてのクイズをときながら、常設展示室を巡るツアー。対象は小学生以上。

○絵からとびだす物語：11月3日(日)10:00～13:00

作品を見ながら、物語をつくり、演劇仕立てで発表。当館ボランティアが企画。小学3年生以上対象。

○動物のかたち・ひとのかたち・じぶんのかたち：11月4日(月・祝)10:00～13:00

講師：近藤祐史(アーティスト)

動物をモチーフとした作品を鑑賞後、その体験をもとに、架空の動物を制作。小学3年生以上対象。

参加者数：延べ781人

オ. ボランティア活動

当館では、平成25年4月末時点で147人のボランティアが登録し、「新聞情報」(43人)、「図書整理」(22人)、「美術家情報整理」(14人)、「ギャラリーガイド」(68人)の4つのグループに分かれて、週1回程度、美術館で活動をしている。なお、平成25年度よりOB会を発足し、10年以上活動をして退会したボランティアにはOB会に入会が可能となり、常設展および館主催の特別展の無料入館などの特典を付与することとした。

○活動内容

「新聞情報ボランティア」新聞掲載の美術関連記事の切り抜き、ファイル作業など

担当：岩永悦子

「図書整理ボランティア」美術館蔵書の整理、データ入力など

担当：中務美紀(嘱託司書)

「美術家情報整理ボランティア」美術館に届く展覧会案内状の分類、整理、データ入力など

担当：吉田暁子

「ギャラリーガイドボランティア」一般来館者・学校団体への常設展示作品の紹介

なお、ギャラリーガイドボランティアについては、スクールツアーのための研修およびフォローアップのための面接も実施した。

担当：教育普及係

○共通の活動として

館外見学研修(9月8日(日)) 大分市美術館、アートプラザを訪問 参加者32名

(5) 第5回福岡ミュージアムウィーク

平成25年5月18日(土)～26日(日) (9日間)

博物館・美術館の役割を広く多くの方々に知っていただくために制定された「国際博物館の日」(5月18日)を記念して、福岡市博物館・福岡市美術館・福岡アジア美術館・福岡県立美術館等10施設が連携し、様々なイベントを通じて「出会いの場」、「知識の場」、「発見の場」である博物館・美術館をアピールした。

① 共通事業

(ア) 期間中の常設展観覧料無料

(イ) スタンプラリー

② 福岡市美術館事業

(ア) 講演会

実施日：平成25年5月19日(日)

講師：原田マハ(作家, 元森美術館キュレーター)

参加者：240人

(イ) 図録フェア

実施日：平成25年5月18日(土)～26日(日)※休館日を除く

購入者：2,148人

(ウ) つきなみ講座

実施日：平成25年5月18日(土)

講師：山口洋三

参加者：26人

(エ) キッズコーナーミニミニワークショップ

実施日：平成25年5月21日(火)～24日(金)

参加者：89人

(オ) 建築ツアー

実施日：平成25年5月25日(土), 26日(日)

参加者：35人

(カ) ギャラリーツアー

実施日：平成25年5月18日(土)～26日(日)※休館日を除く

参加者：65人

(キ) けやき通り音楽祭2013チャリティコンサート

実施日：平成25年5月25日(土), 26日(日)

参加者：348人

(6) 読書室

読書室では、美術に関する書籍や全集、こども向けの美術書など約 3000 冊、国内外の美術雑誌を 30 数種類配架し、また当館開催の特別展・常設展に関する資料の特集を常時行い、来館者に美術に関する知識や興味をより深めてもらえるよう、資料を通しての普及啓蒙活動を行った。

平成 25 年度の利用者数は 3678 人。(7～9 月は閉室。開館日数 227 日、一日平均利用者数 16 人)

(7) 紀要

職員の研究成果を発表、蓄積することを目的に『福岡市美術館紀要第 2 号』を発行した。

内容および執筆者は下記の通り。

- ・美術館と動物園の連携:「美術館で Zoo」の教育普及活動 神保明香
- ・[報告文]アジアゾウの剥製標本の展示を目的とした保存処置報告 渡抜由季
- ・福岡市美術館所蔵 アンコール時代の青銅弥勒菩薩頭部について 後藤恒
- ・九州派—その誕生を人物交流から見る 山口洋三

1 平成25年度事業実績

(1) 展覧会の開催

ア 特別企画展

(単位：日，点，人)

展覧会名	会期	開催日数	出品点数	観覧者数	共催
NTT西日本スペシャル おいでよ！絵本ミュージアム2013	25. 7.26～25. 8.18	24	—	50,418	西日本新聞社 テレビ西日本 NPO法人子ども文化コミュニ ティ
スタジオジブリ・レイア ウト展	25 10.12～26.1.26	87	—	150,418	読売新聞社 FBS福岡放送
東京・ソウル・台北・長 春—官展にみる近代美術	26. 2.13～26.3.18	30	129	3,552	読売新聞社 美術館連絡協議会 FBS福岡放送

イ 常設企画展

(単位：日，点，人)

展覧会名	会期	開催日数	出品点数	観覧者数	備考
窓花／中国の切り紙— 黄土高原・暮らしの造形	25.10.18～26.1.28	84	311	20,816	中国で、正月の飾りから、日用品の刺繍の型紙、葬儀まで、暮らしの様々な場面を彩ってきた切り紙を紹介。模様や形、技法のみならず、背景となる黄土高原の生活にも焦点をあてた。

ウ 常設展

- (ア) ポートレイト・ミュージアム 開催期間：平成25年 3月22日（金）～ 7月 2日（火）
- (イ) 変身！ 開催期間：平成25年 4月 4日（木）～ 7月 2日（火）
- (ウ) ベトナム・うるわし・なつかし 開催期間：平成25年 7月 4日（木）～ 10月 1日（火）
- (エ) 夏休みあじびパレット 開催期間：平成25年 7月 4日（木）～ 10月15日（火）
—あか、あお、きいろってどんな色？
- (オ) 《子鹿》のふるさと 開催期間：平成25年10月 3日（木）～ 12月25日（水）
—フォーク・アートとアジアの美術
- (カ) お家へ帰ろう 開催期間：平成26年 1月 2日（木）～ 4月 1日（火）
—わたしの居場所をめぐるストーリー
- (キ) 記録としての芸術—近代史を見る眼 開催期間：平成26年 1月30日（木）～ 4月22日（火）

エ 展覧会の観覧者状況

(単位：展，件，人)

区分	常設展	特別企画展		貸会場展		合計		あじびホール	
		展覧会数	観覧者数	展覧会数	観覧者数	展覧会数	観覧者数	件数	入場者数
24年度	(214) 66,876	3	(461) 54,893	61	(402) 188,001	64	(989) 309,770	148	14,069
25年度	(175) 54,509	3	(1,450) 204,388	77	(170) 84,587	80	(1,104) 343,484	134	13,183
開館以来の集計	(170) 729,489	48	(715) 1,393,463	808	(257) 1,552,785	856	(811) 3,675,737	1,580	152,828

* () は、常設展・特別企画展・貸会場展は開催日1日あたり、合計は開館日1日あたりの観覧者数

(2) 美術交流事業

ア 美術作家招聘事業

13カ国・地域から58人の応募があり、美術交流事業招聘者選考委員会で4人を選考した。

第1期(5月)に2人、第2期(9月)に2人を約10週間招へいし、作品制作やワークショップ等とおして市民交流を図った。

(ア) チェン・サイ・ファ・クァン (シンガポール) 滞在期間：平成25年5月15日～7月23日

主な活動内容

- ・作品制作：土を使ったサウンド・インスタレーションの制作を行なった。博多人形に使われる福岡市七隈産の粘土を入れた竹筒に、真鍮と亜鉛の棒をさして電気を発生させ、そこから生み出した振動音が同じ粘土から制作した土器によって増幅され、独特の音を奏でた。
- ・トーク：「滞在者によるトーク～これまでの活動と福岡での予定～」
一般92人、あじびホール(5/25)
- ・ワークショップ：「TERBALIK (さかさま) ～箱形カメラ人間になろう！」
愛宕小学校6年生134人 彫刻ラウンジ(6/17)
- ・トーク：原北中学校1年生247人 交流スタジオ(7/2)
- ・展覧会：「第13回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」
観覧者1452人、交流ギャラリー(7/20～8/5)
- ・オープニングイベント：「大地の音」実演とトーク
一般71人 交流ギャラリー(7/20)

(イ) チャリントン・ラチュルチャタ (タイ) 滞在期間：平成25年5月15日～7月23日

主な活動内容

- ・作品制作：自身を投影した日本の伝統文化や儀礼に強く興味をもつ女性が、日本の文化に出会うことによって、恋人を亡くした悲しみから再生する姿を映像作品と、映像作品に登場人物である男女によって、愛のはじまりと終わりを表現した写真作品を制作した。
- ・トーク：「滞在者によるトーク～これまでの活動と福岡での予定～」
一般92人、あじびホール(5/25)

- ・ワークショップ:「インサイド／アウトサイド」
箱崎清松中学校2年生193人 彫刻ラウンジ, 交流スタジオ(7/5)
- ・展覧会:「第13回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」観覧者1452人
交流ギャラリー(7/20～8/5)
- ・オープニングイベント:「超新星の夢」上映とトーク
一般78人 交流ギャラリー(7/20)

(ウ) サミール・タウド (インド) 滞在期間:平成25年9月11日～11月19日

主な活動内容

- ・作品制作:八女市の燈籠人形など、からくり人形について調査、撮影し、ムンバイの機械人形と対比させた写真作品を完成させた。
- ・トーク:「滞在者によるトーク～これまでの活動と福岡での予定～」
一般53人 交流スタジオ(9/28)
- ・ワークショップ:「空飛ぶアニメーション」
春日市立春日北中学校2年生129人 春日市立春日北中学校(11/8)
- ・ワークショップ:「ストップモーション」
古賀市アートバス参加者(古賀東中学校)13人 会議室、および博多リバレイン周辺(11/9)
- ・展覧会:「第13回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」
観覧者982人 交流ギャラリー(11/16～12/2)
- ・ギャラリー・トーク:一般58人 交流ギャラリー(11/16)

(エ) バーサンジャブ・チョジリアブ (モンゴル) 滞在期間:平成25年9月11日～11月19日

主な活動内容

- ・作品制作:伝統的なモンゴル画の技法を用いて、モンゴルや福岡の人々の生活や風景をテーマに、絵画13点を制作した。
- ・トーク:「滞在者によるトーク～これまでの活動と福岡での予定～」
一般53人 交流スタジオ(9/28)
- ・トーク:有田小学校3年生97人 交流スタジオ(10/15)
- ・ワークショップ:「草原の暮らしを想像して描こう！」
西南学院小学校5年生63人 西南学院小学校(10/31)
- ・地域交流イベント:「博多リバレイン灯明」博多リバレイン フェスタスクエア(10/19)
- ・展覧会:「第13回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」
観覧者982人 交流ギャラリー(11/16～12/2)
- ・ギャラリー・トーク:一般58人 交流ギャラリー(11/16)

イ 研究者・学芸員等招聘事業

8カ国・地域から12人の応募があり、美術交流事業招聘者選考委員会で2人を選考した。

第3期(1,2月)に約6週間招へいし、滞在中にアジア美術の研究を行うとともに市民向けの講座等を開催した。

(ア) キム・ヒョンスク (韓国) 滞在期間:平成25年1月15日～2月25日

主な活動内容

- ・調査・研究:当館所蔵の韓国作家作品および福岡トリエンナーレについて、調査、研究を行った。

- ・美術講座:「朝鮮美術展覧会の画家たち」(「東京・ソウル・台北・長春——官展にみる近代美術」展関連イベント「近代美術にどっぷり! ?の二日間 あじび集中講座!」4時限目) 一般70人、あじびホール(2/16)
- ・美術講座:「あじび美術講座2014 キム先生の韓国美術講座—アジア美術展から福岡トリエンナーレへ」 一般35人、あじびホール(2/20)

(イ) ニ・クン/倪昆 (中国) 滞在期間:平成26年2月10日~3月23日

主な活動内容

- ・調査・研究:「アジアにおけるアーティスト運営のアートスペース」をテーマに、実際に福岡、北九州、関西のアートスペースの調査を行ったほか、当館所蔵の資料・書籍を基に研究を行った。
- ・美術講座:「あじび美術講座2014 重慶~福岡・北九州 アーティスト・ラン・スペースのいま」 一般49人 あじびホール(2/14)
- ・美術講座:「あじび美術講座2014 ニ・クン(倪昆) トーク&上映会 重慶のビデオアート」 一般47人 あじびホール(3/23)

ウ 研究者受入支援

他の機関から助成等を受けて自費で福岡に滞在し、調査・研究を行うことを希望するアジアの研究者に対して、調査・研究活動を支援した。

(ア) チウ・ホエメイ/邱惠眉 (台湾) 滞在期間:平成25年9月9日~12月9日

主な活動内容

- ・調査・研究:台湾現代芸術基金会からの助成で来日。
当館の招聘事業、展覧会事業等について研修した。

エ 地域交流事業

(ア)「博多リバレイン灯明」(「第18回博多灯明ウォッチング2013」同時開催)

平成25年10月19日

博多リバレインが毎秋開催している「博多リバレイン灯明」に、美術作家招聘事業で滞在していたバーサンジャブ・チョジリアブ(モンゴル)が参加した。バーサンジャブは、モンゴルの風景や文化をテーマに、馬の群れやラクダ、ゲル、馬頭琴などを下絵として描き、数千個の灯明を博多リバレイン1階のフェスタスクエアに設置した。

(3) 収蔵品の収集について

ア 購入 ホウ・ルル・シュウズ(侯淑姿)

「越境/文化アイデンティティ—アジアから来た花嫁の歌(II):黄氏戀とその娘(A)(B)」(写真) ほか50点
(内訳) 絵画11点 版画36点 映像1点 写真3点 合計51点

イ 寄贈 サン・ミン「団結は力なり」(絵画) 外19点

(内訳) 絵画10点 版画10点 映像0点 写真0点 合計20点

(4) ミュージアム施策事業

ア 「福岡ミュージアムウィーク」

平成25年5月18日～26日

(ア) デヴィ夫人トークショー

5月18日

216人

(イ) ギャラリーツアー

5月20日、21日、23日、24日（計4回）

アジアギャラリー（一般25人）

(ウ) アジアの絵本の読み聞かせ

5月19日、25日、26日（計6回）

キッズ・コーナー（未就学児と保護者92人・37組）

(エ) バックヤードツアー

5月19日、26日（計2回）

バックヤード（一般34人）

(オ) 滞在作家によるトーク

5月25日

講師：チェン・サイ・ファ・クァン（シンガポール）、チャリントン・ラチュルチャタ（タイ）

あじびホール（一般92人）

(5) その他

ア 「とびだせ！アジア美術館」

心身の疾病や障がい、保護の必要性などの理由から来館自体が困難な子どもたちを対象に、入院・通学する施設内で、所蔵品展示やトークを行い、アジアの美術・文化に触れる機会を提供した。

(ア) 屋形原特別支援学校

平成26年3月25日～28日

絵画6点を展示

イ 所蔵品貸出

(ア) 「アジアをつなぐ一境界を生きる女たち 1984-2012」

三重県立美術館

平成26年4月13日～6月23日

62点貸出 5,313人

(イ) 「LOVE展：アートにみる愛のかたち」

森美術館

平成25年4月25日～9月1日

1点貸出 429,514人

(ウ) 「Welcome to the Jungle—熱々！東南アジアの現代美術」
熊本市現代美術館
平成25年10月5日～11月24日
27点貸出 3,937人

(エ) 「ゼン・ファンジ」
パリ市立近代美術館
平成25年10月17日～平成26年2月16日
1点貸出

(オ) 「郭徳俊 ニコッとシェー 1960年代絵画を中心に」
国立国際美術館
平成26年2月1日～5月11日
1点貸出 54,259人